



第11回：近現代 暗記事項①（散文）

戯作文学 【仮名垣魯文】…「西洋道中膝栗毛」「安愚楽鍋」

翻訳文学 【丹羽純一郎】【坪内逍遙】

政治小説 【矢野龍溪】…「経国美談」

写実主義 明治20年前後／現実を客観的に描こうとする／人間心理の分析／近代文学の幕開け

【坪内逍遙】…「小説神髓」「当世書生気質」

【二葉亭四迷】…「小説総論」「浮雲」／言文一致

擬古典主義 明治20年代／日本の古典文学を再評価／紅露時代

・硯友社…日本最初の文学結社／機関誌〈我楽多文庫〉／尾崎紅葉・山田美妙

【尾崎紅葉】…「金色夜叉」「多情多恨」／雅俗折衷体／である調の言文一致体

【幸田露伴】…「風流伝」「五重塔」

【樋口一葉】…「にごりえ」「たけくらべ」

浪漫主義 自我の目覚め／内面的真実を重視

・文芸雑誌〈文学界〉…北村透谷・島崎藤村

【北村透谷】…「内部生命論」

【徳富蘆花】…「不如帰」

【泉鏡花】…「高野聖」「歌行燈」

【森鷗外】…「即興詩人」（翻訳小説） 「舞姫」

自然主義 人間や社会の実相を客観的に描写

【島崎藤村】…「破戒」「春」「家」「夜明け前」

【田山花袋】…「蒲団」「田舎教師」

【国木田独步】…「武蔵野」

反自然主義 余裕派(高踏派)／白樺派／耽美派**余裕派(高踏派)** 深い教養と批判精神

【森鷗外】…「青年」「雁」「阿部一族」「高瀬舟」「渋江抽斎」／歴史其儘

【夏目漱石】…前期三部作「三四郎」「それから」「門」

後期三部作「彼岸過迄」「行人」「こころ」／絶筆「明暗」／則天去私

耽美派 自由で美的な世界を描く

【永井荷風】…「すみだ川」「遷東き譚」「あめりか物語」「ふらんす物語」「腕くらべ」

【谷崎潤一郎】…「刺青」「痴人の愛」「春琴抄」「細雪」「源氏物語（現代語訳）」

【佐藤春夫】…「田園の憂鬱」「都会の憂鬱」

白樺派 個性と自由の尊重

・雑誌〈白樺〉

【武者小路実篤】…「お目でたき人」「幸福者」「友情」「愛と死」

【志賀直哉】…「城の崎にて」「暗夜行路」「網走まで」「和解」

【有島武郎】…「或る女」「カインの末裔」「惜しみなく愛は奪う」

【里見弴】…「多情仏心」

新現実主義 耽美派・白樺派によって見過ごされてきた現実に立ち返る／新思潮派／奇蹟派**新思潮派(理知派)**

・雑誌〈新思潮〉／東京帝国大学出身者

【芥川龍之介】…「羅生門」「鼻」「地獄変」「枯野抄」「河童」「或阿呆の一生」「歯車」

短編小説に優れる／“ぼんやりとした不安”を抱えて自殺

【菊池寛】…「父帰る」「恩讐の彼方に」／雑誌〈文芸春秋〉創刊／芥川賞・直木賞の設置

奇蹟派(新早稲田派) 自然主義の流れを受け継ぎ、私小説を定着させる

・雑誌〈奇蹟〉、〈早稲田文学〉

【広津和郎】…「神経病時代」

【葛西善蔵】…「哀しき父」「子をつれて」

プロレタリア文学 プロレタリア（労働者階級）のための階級闘争の文学／政治的

・雑誌〈種蒔く人〉、〈文芸戦線〉、〈戦旗〉

【小林多喜二】…「蟹工船」

【葉山嘉樹】…「セメント樽の中の手紙」「海に生くる人々」「太陽のない街」

転向文学 弾圧を受けてプロレタリア文学からの転向。その苦悩

【中野重治】…「村の家」「歌のわかれ」

【島木健作】…「生活の探求」

芸術派 政治思想を抜きにして文学そのものの革新を／新感覚派／新興芸術派／新心理主義

新感覚派 リアリズムの排除／新しい文体による感覚世界の知的な再構成を目指す

・雑誌〈文芸時代〉

【横光利一】…「日輪」「旅愁」「機械」

【川端康成】…「伊豆の踊子」「雪国」「千羽鶴」「山の音」「掌の小説」

新興芸術派 反プロレタリア文学を旗印に

【井伏鱒二】…「山椒魚」「黒い雨」

【梶井基次郎】…「檸檬」「城のある町にて」

新心理主義 人間心理の解剖／新しい手法で人間の内面を描く

【堀辰雄】…「風立ぬ」「聖家族」

【伊藤整】…「チャタレイ夫人の恋人」（D.H ロレンス原作 翻訳）「鳴海仙吉」

昭和十年代に活躍した人々

【小林秀雄】…「無常といふ事」「私小説論」／文学としての“批評”を確立

【中島敦】…「山月記」「李陵」

【柳田国男】…「遠野物語」

～敗戦～

無頼派(新戯作派) 規制の道德に反発／退廢的／ニヒリズム

【太宰治】…「斜陽」「人間失格」「津軽」「晩年」「ヴィヨンの妻」

【坂口安吾】…「白痴」「墮落論」(評論)

【織田作之助】…「夫婦善哉」

戦後派 自身の戦争体験をもとに政治と文学の関係を追及→死を運命ととらえる／西欧の手法

【野間宏】…「暗い絵」「真空地帯」

【武田泰淳】…「ひかりごけ」

【大岡昇平】…「俘虜記」「野火」

【三島由紀夫】…「仮面の告白」「金閣寺」「潮騒」

【阿部公房】…「壁」「砂の女」

第三の新人 経済的な繁榮／日常ていな市民生活における人間／政治的視点を作品に取り入れれない

【安岡章太郎】…「悪い仲間」

【義之淳之介】…「驟雨」

【遠藤周作】…「沈黙」「海と毒薬」

昭和三十年代以降

【井上靖】…「あすなる物語」「天平の甕」「敦煌」「しろばんば」

【石原慎太郎】…「太陽の季節」

【大江健三郎】…「飼育」「死者の奢り」「万延元年のフットボール」／ノーベル文学賞受賞

【開高健】…「裸の王様」